カンボジアの観光業

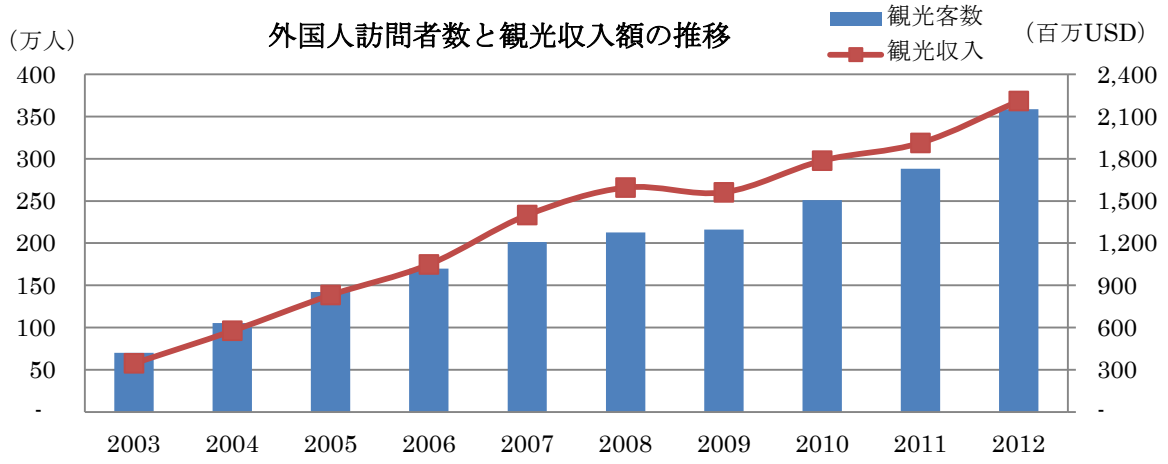
岡山県カンボジアビジネスサポートデスク（I-GLOCAL）

はじめに

カンボジアと言うと世界遺産のアンコールワットを思い浮かべる人も多いのではないだろうか。アンコールワットは日本人に人気のある海外観光地として３年連続で１位に選ばれている[1]。観光省の発表によると、2012 年における海外からカンボジアへの訪問者数は 358 万人となり、前年比で 24%の増加率となっている。2013 年 1 月～4 月の外国人旅行者数は既に 150 万人に達し、今年度は 420 万人が訪れると予測しており、2020 年には年間 750 万人の外国人訪問者数を想定している。今回は、カンボジアの主要産業であり、GDP 成長率約７％という高い経済成長を牽引している観光業についてレポートする。

カンボジア経済に占める観光業

カンボジアの主要産業は、農業・縫製業・観光業・建設業だが、その中でも経済成長を牽引しているのは、縫製業と観光業である。外国人旅行者が増加している背景には、カンボジア政府が観光業を重要産業として位置づけている事がある。観光業の成長を促すことにより雇用拡大を促進し、貧困率の低下に繋がることも期待している。ホテル建設やリゾート開発等の案件には国外からも多額の投資が流入してきており、この投資が、観光業だけでなく、交通網の整備等、他部門への経済波及効果に繋がることも期待されている。2012 年度の国際観光収入は 22 億ドルに達し、国家歳入の増加要因に繋がる産業となっているため、経済発展プログラムの中でも重要な部門として位置づけられている。



（出所）観光省 Tourism Statistics Annual Report 2012 より作成

[1] トリップアドバイザー社「日本人に人気の行ってよかった海外観光地 Top50」による調査より

http://www.tripadvisor.jp/pages/OverseaAttractions_2013.html

上図の通り、外国人観光客数の増加と共に観光収入も増加しており、GDP における観光収入額の割合は、2004 年以降 10%を超える高い比率となっている。

来訪者動向

2012 年度における国別来訪者は、ベトナム、韓国、中国、ラオス、タイの順に多く、日本は第６位で、全体の５%に当たる約 18 万人がカンボジアを訪れている。ベトナムからの来訪者は 76 万人超と前年比 24.3%の増加率であり、全体に占める割合は 21.3%となっている。また、隣国であるラオスとタイの前年比はそれぞれ 97.6%と 72.5%と目覚しい増加率となっているが、これは運賃の安い長距離バスがラオス・タイ～カンボジアを直通で運行していることが、この大きな増加率をもたらしている。

今後の課題

カンボジアの観光地というとアンコールワットというイメージが定着していることから、カンボジアの見所の多様化を図る必要があると考えられる。カンボジア南部には美しい海岸線の広がりやマングローブの原生林が手付かずの状態で残されているし、東北部にはメコン川が作り出す豪快な滝、川イルカ等の野生動物や少数民族文化等の観光資源と成り得る地域が点在しているにも関わらず、旅行業者への広報活動が不足していることもあり、旅行者への情報提供はまだまだ不十分な状態である。また、このような地域は観光地としては未開の状態なので、アクセス環境の改善やホテル等の観光インフラの整備も必要である。東北部のラタナキリやモンドルキリへの道のりは、首都プノンペンから長距離大型バスで 10 時間を要し、雨期は道路状況が悪く通行不能になる場所もあるのが現状である。

2013 年 7 月現在、カンボジアの国内空路は、南部の都市シアヌークビルとアンコールワットのあるシェムリアップを結ぶ路線のみであり、2013 年 1 月～6 月までの利用者は約 8,000 人であったが、前年同期比では 32%という高い伸び率であった。他の地域にも空路を導入する事で新たな観光名所を作り出すことが可能となり、旅行業者もこの地域をパックツアーとして組込みやすくなると考えられる。平均滞在日数は 6 日～7 日と 2004 年以降は横ばいの状態が続いているが、これらの地域に観光客を誘致することで、滞在日数やそれに伴う観光収入の増加を見込めるだけでなく、地域経済や雇用の活性化も図ることが出来るものと考えられる。

また、更に多くの外国人客を誘致するため、首相自らが諸外国に対して直行便就航の誘致活動を行うとともに、新国際空港の建設計画も進められている。2011 年度に約 25 万人だった中国からの来訪者が 2012 年度には約 33 万人と急増しているのは、中国各都市からの直行便就航や増便により、カンボジアへのアクセス環境を整えた事が挙げられる。国別来訪者数の 1 位～5 位がカンボジアとの隣国もしくは直行便のある国となっていることからもアクセス環境を整備することの重要性が読み取れる。

終わりに

ホテル建設等に対し、海外投資の流入が続いており、観光業はカンボジア経済の発展に大きく貢献している。カンボジアを訪れる外国人数は順調に推移しているが、大多数の旅行者はアンコールワットを目的に同国を訪れているため、更なる観光業の発展を図るには、アンコールワットだけではない観光拠点の分散化や名所を作り出す必要があると考える。観光拠点多角化の試みがその地域の雇用を生み出し、カンボジアの抱える貧困等の問題解決を図ることにもつながることから、国内の観光インフラの整備、旅行業者への広報活動、遺跡観光のアンコールワットとエコツーリズムや異文化体験としての他地域へのパッケージツアーの策定、多くの観光客へアンコールワットだけではないカンボジアの魅力を伝えるべき広報活動などを行うべきであろう。

2013 年 9 月現在、カンボジア～日本間の直行便は就航されていないが、両国間の直行便が運行され、より多くの日本人にカンボジアを訪れて頂きたいと願う。